



今年もジメジメと過ごしにくい梅雨の時期になりました。季節の変わり目は体調を崩しやすく、特に湿気の多いこの時期は、ゼイゼイなど出やすくなります。ひどくなる前に早めの受診を心がけましょう。また、食中毒も発生しやすくなります。食品の管理・取り扱いに気を付け、うがい・手洗いをしっかりしましょう。体調をととのえて楽しい夏をむかえたいですね。



## 院長のお話

### こどもに綺麗な空気を

昨年夏に現在の地に移転した際にカルテの問診表を改訂し、両親の喫煙の有無を記入していただくことにしました。時代の流れから言って、それほど喫煙者は多くないだろうと予想しておりましたが、予想に反して喫煙者の多いことに驚きました。

当院受診の患者さんは圧倒的に3歳未満の小さいお子様が多いのですが、この子たちのお父さんやお母さんがたばこを吸っているのです。

診察をする際、お子様に近づいて診察を行います。たばこの臭いがすることがあります。来院途中の車の中で同伴者が喫煙をしていたと思われます。狭い車の閉鎖空間の中にたばこの煙とともに押し込められていたお子様のことを思うと、かわいそうでなりません。

こどもの脳細胞はすごい勢いで成長を続けています。その成長は13歳頃まで続き、中学生で大人と同じくらいに発育します。そして、成人するくらいまでだんだんと成熟していきます。幼稚園の頃のこどもの記憶力のすごさに驚かされた経験がある人もいるでしょう。1歳のお誕生日頃からヒトは言葉(単語)を覚え始めます。そして、3歳頃までにその数は指数関数的に増えていきます。

これらの時期にたばこの煙は、子供たちの脳に決してよい影響を与えることはありません。沢山の潜在能力を持っているこどもの可能性を親の都合でつぶしてしまうことはたとえ生みの親であろうと許されるものではありません。

たばこを吸う人を嫌だなど最も強く感じるのは、レストランに食事に行って禁煙席のない施設で、隣は小さい子どもを連れた家族だからたばこは吸わないだろうと、席について食事をしていると、先に終わった隣の席の親がたばこを吸い始めたのです。すぐ隣にはこどもがくっついて座っているのです。そして、その煙は私たち家族のいるテーブルにまで漂ってくるのです。

今は、いろいろな施設が禁煙に取り組んでいます。これによって来客者が減少したという話は聞きません。是非、他の多くの施設でも未来を担う子供たちの為に禁煙に取り組んでもらいたいと思います。

### タバコの煙は子供への虐待

お子さんに副流煙を吸わせると・・・

- 1) 乳幼児突然死症候群(SIDS)の原因に
- 2) 喘息発作、急性気管支炎、肺炎、慢性副鼻腔炎(蓄膿症)、中耳炎、扁桃肥大、髄膜炎、アトピー性皮膚炎、等々の原因に
- 3) 病氣入院が増える
- 4) 身長伸びが悪くなる
- 5) 知能の発達が劣る
- 6) 虫歯になりやすい
- 7) 成人後の発癌率が高くなる



### タバコで胎児が窒息！！

妊婦がタバコを吸ったり副流煙を吸うと

- 1) 流産・早産・未熟児になりやすい
- 2) 斜視・脳出血・小児がん・赤ちゃんに奇形がおきやすい
- 3) 乳幼児突然死症候群になりやすい
- 4) 身長、体重の増えが悪い
- 5) 知能の発達が悪い
- 6) キレやすく、落ち着きがない子になりやすい
- 7) 将来、犯罪者になりやすい
- 8) 将来、女兒は不妊になりやすい



## お願い



当院敷地内は禁煙となっておりますが、駐車場の溝などに、たばこの吸い殻があるのを目にします。たばこをお子様が悪く食べてしまったりしては大変です。病院で行うたばこを吐かせる処置は、お子様にとっても苦しい思いをさせてしまいます。このような事故を防ぐためにも「敷地内禁煙」のご理解とご協力をお願いいたします。